

よりよい環境を求めて



発行所
西原町役場
西原町字嘉手苅112番地
電話 (09894) 5-4533
印刷
印刷センター 大永
電話 (0988) 67-5111~3

町の世帯・人口
(昭和56年4月末現在)
世帯数 4,110世帯
人口 16,640人
男 8,491人
女 8,149人
4月の人口移動
出生 21人 死亡 8人
転入 120人 転出128人
婚姻 10件 離婚 3件

海浜清掃を実施

みんなで公害を防止し美しい自然と住みよい生活環境を守ろうと六月五日から十一日までの環境週間にちなんで町役場の提唱により町内の海浜清掃が六月五日午前九時半から雨天の中、行われた。事業所、各区、婦人会、町議会、町農業委員会、町教育委員会、民生委員会、町商工会、町役場など各団体から約二百三十人の人たちがカッパ姿で手にカマやクマ手などをもち参加した。

集合場所の南国養豚団地前で町長のあいさつ、町職員による作業要領の説明を受けた後、我謝、兼久、小那覇の海岸約二キロにわたって各班がわかれて清掃作業を一斉に行った。

作業前の海浜には、空きビン、空きかん、ガラス破片、プラスチック、木片、タイヤ、その他生活廃棄物が散在しまさにチリ拾て場同然で「よごれた海」であった。まず、燃えるものと燃えないものにわけて一つ一つの回収が行われ、空かんなどの燃えるものはビニール袋に詰められトラックで東部清掃ゴミ処理場に運んだ。六ト車で二回、二・五ト車で二回出た。また、護岸沿の草刈り及び清掃も並行して行われた。雨天のため燃やすことができなかった木片や刈り取られた草などは一ヶ所に集められ、後日、焼却された。

一日がかりの清掃で海浜は見違える程きれいになり、環境美化は今後益々推進されることであろう。町でも今後とも毎年一回海浜清掃を行い町民共有の財産である海域の環境保全に努める計画です。町民の皆様にも木ぎれ、空かん、空きビン、紙くず等の廃棄物は海に捨てないよう協力をお願い致します。海は皆のものなのです。

また、雨天にもかかわらずこの清掃作業に参加された町民及び事業所の関係者の方々に深く感謝申し上げます。



▲ 海浜清掃前のよごれた海 (兼久海岸で以下同じ場所)



▲ 海浜清掃を一斉に行う



▲ 海浜清掃後のきれいな海



▶ 海浜清掃に苦勞様でした

土地状況筆別調査まとめ

町産業課と町農業委員会では、昭和五十五年四月一日から六月三十日にかけて農業振興地域の見直し作業の基礎資料にするために各字の土地の筆別調査を行ったが、この程、町内の用途別の土地利用状況の集計がまとまった。①市街化区域、②農業振興地域内白地、③農用地の用途別に分類がなされた。

この調査には、町産業課職員三

西原町の土地利用状況の筆別調査結果

※単位: m² () 内は百分率%

現況 用途別	農 地							非 農 地				計
	さとうきび	そ 菜	花 卉	その他	樹園地	農業施設用地	遊休地	原 野	宅 地	工 場	その他	
① 市 街 化 区 域	505,851 (3.55)	50,860 (0.36)	22,921 (0.16)	60,813 (0.43)	3,567 (0.03)	7,623 (0.05)	67,137 (0.47)	103,734 (0.73)	688,443 (4.83)	846,256 (5.93)	1,102,613 (7.73)	3,459,818 (24.26)
② 農業振興地域内白地	795,798 (5.58)	7,4560 (0.52)	7,010 (0.05)	52,156 (0.37)	17,368 (0.12)	9,381 (0.07)	154,587 (1.08)	1,576,485 (11.05)	835,832 (5.86)	499,072 (3.50)	1,818,030 (12.75)	5,840,288 (40.95)
③ 農 用 地	3,222,041 (22.59)	203,024 (1.42)	35,115 (0.25)	141,695 (0.99)	64,446 (0.45)	56,773 (0.40)	494,917 (3.47)	502,304 (3.52)	23,361 (0.16)	24,667 (0.17)	194,108 (1.36)	4,962,451 (34.79)
計	4,523,690 (31.72)	328,444 (2.60)	65,046 (0.46)	254,664 (1.79)	85,381 (0.60)	73,777 (0.52)	716,641 (5.02)	2,182,523 (15.30)	1,547,636 (10.85)	1,369,995 (9.60)	3,114,760 (21.84)	14,262,557 (100.00)

た。町農業委員会職員二名が当った。用途別の調査結果は次の通り。

新採用町職員決まる

昭和五十六年度町職員採用試験が四月二十一日・二十四日の両日行われ、一般事務職二十二名、保母職十五名、世話人十名の受験者の中から各職種ともそれぞれ一名が六月一日に町職員として採用されました。

尚、採用された方々は次の通り
〔一般事務職〕比嘉茂夫(教育委員会) ▼〔保母職〕与那嶺妙子(福祉課) ▼〔世話人〕大城ナエ(教育委員会)



▲ 新採用職員の辞令交付式

町職員人事異動

昭和56年6月1日発令
〔退職〕山畑清光(福祉課長)
〔昇任〕福祉課長・宮平宗益(保険年金課年金係長)
昭和56年6月16日発令
〔昇任〕保険年金課年金係長・喜納昌春(土木課書記)

※() 内は前任課

第一回老人体力テスト終わる

町老人クラブでは、五月二十六日午後、健康増進のため第一回老人クラブ体力テストを町社会福祉センターで行った。折り返し走、立位体前屈、的あて、閉眼片足立ち、握力、ぶらさがり、両足上静止などを測定。参加者は百十名。

昭和56年度 固定資産税第二期納期は 7月1日～7月31日まで。

県身障害者スポーツ大会 本町から六名参加

国際障害者年

走り、跳び、投げる―第十七回
沖縄県身体障害者スポーツ大会
(県・名護市・県身障害者福祉協会
主催)が五月十七日名護市宮内上
競技場で開かれ、本町から六名
の選手が参加し各種目に健闘し
た。

今年はおもしろも国際障害者年。
家族や町社協職員、町福祉課職員
など約十三名が応援にかけつけ各
選手の健闘に拍手を送り、一体と
なって大会を盛り上げた。

「スポーツを通して体力増強を
図り、身障害者の自立更生の実を
あげ、さらに一般社会の身体障害者
に対する正しい認識の向上を図
る。」というのがこの大会のねら
い。この趣旨にふさわしい大会と
なった。参加チーム二十一のうち
本町の選手団が属する南部福祉地
区チームは中部福祉地区チームに
次いで準優勝に輝いた。

競技種目は、車椅子競技群、走
技群、跳技群、水泳群、卓球の二
十五種目でいずれも障害別に競技
された。

尚、競技結果は次の通り。

▼百(聴覚)・稲福恭栄(予選
二位)▼障害別リレー・稲福恭栄他
四名(一位)▼走巾跳(聴覚)・稲
福恭栄▼ヤリ正確投(片大腿切
断)・玉那覇俊雄(一位)▼砲丸(両
下肢不完全)・与那嶺勝正(三位
▼卓球(片大腿切断)・玉城幼雄
一位▼卓球(片下肢不完全)・
宮平助徳(二位)▼卓球(車いす)
・新垣正成(予選失格、

入賞した選手には、一位金メダ
ル、二位銀メダル、三位銅メダル
が与えられた。

障害者のために つり銭寄付

町内の身体障害者のために役立
てて下さいと一五月二二日午後、
字嘉手刈四五一二番地の永田瑛子

▲永田さんから贈られたつり銭



▲ 身体障害者の百メートル競走

さんから町心身障害者を育てる会
(知花正勝会長)に二ヶ年間ため
たつり銭(四万一千四百七十七円)の
寄付がありました。

二年間つり銭をためていたウイ
スキーびんには、一円玉から百円
玉の硬貨千四百枚余と五百円・
千円の紙幣三十枚余が入ってい
た。

永田さんには、この紙面をかり
て感謝申し上げます。

寄付お礼

五月三十日、字小那覇二四〇番
地の玉城重英さん(62才)から育
英会の資金に役立て下さいと町育
英会に七万円の寄付がありました
た。玉城さんには、この紙面をかり
て感謝申し上げます。

町民の理解と関心を高めるために

水道パレードを実施

水道について、町民の理解と
関心を高めようとして六月一日か
ら七日までの水道週間にちなん
で町水道課では、六月一日午後
町給水工事指定店などの協力を
得て水道パレードを行い、節水
法や水の正しい使い方など町民
に呼びかけた。コースは、町役
場前をスタートし町内全域を回
った。参加した車は七台で、水
を大切にしましょうの水道週
間ののぼりを掲げパレードし
た。

水道は、町民の健康で文化的
な日常生活を支える最も重要な
施設のひとつです。

しかし、近年水道を取りまく
環境の変化は極めてきびしく、
水需要の増大に対応するための
新しい水道水源の確保、水道事



このマーク
は、社会への
〈完全参加と
平等〉をテー
マにした、国
際障害者年の



シンボルマークで、フランスの国際障害者年
国内委員会より提案されたデザインをもとに
して、国連によって決められたものです。平
等な立場で相互の連帯と支持を誓い、手を結
ぶ2人の人間を象徴しています。

駐在保健婦に 奥原末子さん

町民の病気の予防と健康増進な
どに貢献している那覇保健所駐在
保健婦(西原町担当)に真栄城通



寄付お礼

六月十七日、宇徳佐田四四番地
の安座間喜盛さん(七十一才)から
「町老人クラブの活動に役立てて
下さい。」と町老人クラブ連合会
(会長・呉屋幸夫)に三十万円の
寄付がありました。

安座間さんには、この紙面をか
りて感謝申し上げます。

行政相談委員に新垣良康氏



四月一日、行政管理庁長官か
ら行政相談委員に新垣良康氏
が四度委嘱されました。任期は
二ヶ年で相談は無料です。そのお
気軽にご利用下さい。年金や保
険、税金、道路、川、農地、公
害、交通、登記などの暮らしに
つながる苦情や相談に応じてい
ます。

住所 兼久一 番地
電話 五一八四六九

子さんにかわり奥原末子さんが就
任しました。これは、五月一日の
人事異動によるものです。

三才児健診、一才児健診、乳幼
児保健相談、妊婦保健相談、成人
病に関する相談などを町住民課と
相提携して実施していくのが主な
仕事であります。

毎週水曜日は健康相談日と設定
し午後一時から五時まで。
社会福祉センターの一室を貸り
て町民の健康相談に応じていま
すのでお気軽におたずね下さい。

棚原婦人会、環境庁から
地域環境美化功績者賞を受賞

これまで七十年間、地域の環境
美化に貢献したとして棚原婦人会
(宮城幸子会長)が、六月八日、
環境庁から「地域環境美化功績
者」の賞を受けた。賞を受けると
ために婦人会の代表二名が東京に
出向いた。

本町で初の民話調査実施

民話を後世に正しく伝えるため町内で初めての民話調査が六月十四日午前、沖国大口承文芸研究会と町史編さんを進めている町当局がタイアップして行われた。

この日、民話調査をした部落

は、池田、桃原、安室、我謝、与那城、兼久、仲伊保の七ヶ所。各字公民館で調査が行われた。九時から開始され正午まで三時間の聞き取り調査であった。

各公民館には六十五歳以上の老年寄りが次々と集まり、計百十二名に及んだ。

調査には、沖国大の遠藤庄治教授の指導の下に沖国大学生二〇名、地元の保母、幼稚園教諭二〇名、沖縄女子短期大学生三名計四十三名が当り、老人の話をひきだすためにテキパキとした適切な質問、あいづちで応対していた。また、一方

では、話をテープに収録するためマイクを老人の方へ向け、調査員も汗だくで最適な録音に努めていた。

「クビリの話」、「クティワの話」、「神謝メークシーの話」、「三津武蔵」、「御茶多理真五郎」、「エボンガワ」、「ミハギ知念」、「連玉ギル」など三十七話が採集された。調査指導及び実際調査に当たった遠藤教授によれば「この分では、二、三冊の本になるであろう。予想以上に民話が豊富だ。」という話である。

来年三月には、幸地、棚原など残り十七ヶ所の民話調査を行い、民話発掘に努める予定である。

これらの民話は、今後整理されたあと、町史の「民俗・考古編」や民話集などで紹介されることになった。



▲ 民話調査に応じる老人の方々（池田公民館で）

農耕文化を今に伝える

棚原の土地公祠

棚原の土地公祠はウムヌニサトウタヌチュといわれるヒジャの主が約二百年前、首里の西むいからフトウキを持ち帰ったのがその始まりとされている。高さ五〇センチほどの石柱を左右に立て、その上に屋根型の石を被せている。祠の中に素焼のフトウキ（銅像）が男女二体が安置されている。一名

土帝君（トーテークン）とも云われる。その像は道冠道服を着けた中国伝来の土地爺像である。

祀られている神は、農作の神と子供の神だと言われ、二月二日のクスクイ、または、クシユクイ（豆の種もまき、稲も植えつけを終えた後の慰労の宴）と五月五日の子供の日には村で祭祀が行われる。



▲ 約200年前の農耕文化を今に伝える棚原の土地公祠（写真提供一字翁長157の3の福治義和さん）

事業所統計調査にご協力をお願いします。

事業所統計調査が七月一日に行われます。商業、工業等の全事業所が調査対象となりますので調査員が来たら積極的に御協力をお願いします。



内間本島縦断 駅伝終わる

内間青年会の第五回本島縦断駅伝が五月十六日走者二十四名が参加して行われた。午前七時五十分、町役場を出発し国道三二九号線を北上し、名護市二見から東海岸沿を辺戸岬に向けてひた走った。全長一五二キロ、三十区間を十一時間〇五分で走破した。

老人クラブ旅行日記

私達老人クラブ一行は、男十三人、女六十人、付添六人、総員九十九人で那覇空港を発った。まことに、にぎにぎしくどの顔も希望にみちて明るい元気な笑顔であった。

正午過ぎ、大阪空港に着き、空港から西の宮球場、甲子園球場をテラリと見て、右手の六甲山脈を仰ぎながらポートピアに着いた。こった返す人並みである。一つのパビリオンを見る

ため長い列が並んだ。六月二日、大阪を発って奈良へ向かう。七代七十余年の帝都であった。生駒山、若草山、歌具山、耳なし山などガイドさんから説明を受けたがこっちゃんになって目がまわるようであった。

若草山は男性の頭を一分割にしたようにわかりやすくその下が奈良公園であった。その次は、東大寺であった。入口の南

大門の左右には「マカーブトキ」「ニョーブトキ」が立っていた。有名な連慶の作である。何しろ高さ八メートル二〇もある大仏だから一本の木では無理であり、寄木作りであった。

ちょうど大仏殿では、修理作業が行われていたが、私達が想像もできないほど、雄大な規模であった。大門殿の中に座っている高さ十六メートルもある大仏様は温顔をたたえていた。

春日大社を拝観して昼食の弁当をとった後、奈良を後にして法隆寺を遠くから眺めながら京都に向った。五時過ぎホテルに到着。

六月三日、新幹線で三島に着いた。私達一行は、足をのばしても前の席に届かないほどゆったりとした席で大名旅行のような気分を十分味わった。

私達は、ユカル日をえらんでマサル日をえらんで生れて果報この上もない方々であったからだろう。

バスに乗り替えて東名高速道路から富士山へ向かう。白糸の滝は富士の白雪がとけて湧き出る水だという。上り下りの階段の側には四十メートルに及び杉の木が肩を並べて天にとどくばかりであった。白糸の滝を過ぎる頃から富士山の雄姿が顔をのぞかせた。うすい絹のような霞を裾にひいて雄大この上もない。この美しい山に感動しない者はいなかった。ほんとに、富士は日本一の山である。

富士を目前にする河口湖岸に立つホテルで一泊した。窓を開けるとすぐ目の前に富士山があった。

六月四日、ホテルを出て山中湖、芦の湖、箱根の開所へ向かう。富士と名残りを惜しんで早々と熱海に到着した。

六月五日は、沖縄に帰る日である。昨晩のホテルは熱海の海岸を見下ろす所であったが、砂浜は埋立てられて散歩も出来ないところであった。熱海を發ち、東京羽田空港に着いた。

九十九名の団体が、五日間にわたって一糸乱れぬ行動をとり、一人の落伍者もなく、行方不明者もなかった。

誰かが、「ジャンボジェット機にかりゆしはのせて、旅の行き戻りいちゆの上から」と歌い出した。全くその通りであった。昔の人はグソーのおみやげが出来たと喜んだ。今の人はこれに活力を得てますます幸せに、ますます御健康で長生きされることを願うのである。

（筆者・字翁長二三〇 仲宗根英輝）

六区と十五区が優勝

パパ・ママさんバレー

バレーボールを通して健康増進とお互いの親睦を図ろうと一町体育協会(平安恒政会長)主催の第三回各区対抗パパさんママさんバレー大会が五月十七日午後九時、西原小、西原中の両会場(体育館)で行われた。

男子十五チーム、女子十四チ



▶パパさん達の熱戦風景



▶ママさん達の熱戦風景

ムの参加があり、会場は選手と応援者などといっぱいとなり熱気でムンムンした。チビッ子なども駆けつけ、パパさんやママさんに黄色い声をあげて応援。

各チームともその日のユニホーム姿にキビキビしたプレーで熱の入った試合が展開された。珍プレーも続出、一喜一憂の場面が随所に見られた。

熱戦の末、パパさんは六区が五区を2-1で下し三年連続優勝を飾った。ママさんは、十五区が十六区を2-0で下し昨年に続き優勝した。

町交通安全推進協議会総会終わる

町交通安全推進協議会(宮平吉太郎会長)の定期総会が五月二十日午後、中央公民館で約六十名が参加して行われた。

今年度は、一二三万一千円余の予算を計上し、交通安全母の会結成の手助けをするほか、春、夏、秋、年末年始の全国交通安全県民運動の推進、交通安全標語・作文の募集、交通安全について意見発表会、交通安全座談会などを実施する計画である。

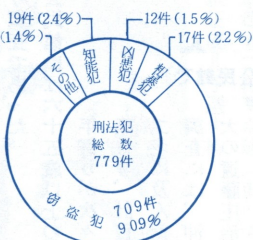


○.....○

犯罪捜査にご協力を

与那原警察署管内の過去五年間の刑法犯の発生状況は、次の通りです。

年別	発生件数
51	720
52	620
53	690
54	614
55	779



昭和五五年中は、過去五年間で最も多い発生となっていました。発生に対する昭和五五年中の検挙件数は五二六件で六七・五%となっていました。これは前年に比べてみると一一・三%も低下しています。

また、凶悪事件の内容については一層の悪質、巧妙化広域化に伴って年々困難になってきており、特に凶悪事件は解決までの等がみられます。一方これらの

期間が長期化しております。ところで、犯罪の捜査活動は、警察の力だけでは出来るものではなく、地域住民の皆さんの協力が絶対不可欠であります。

皆さんの情報から事件が一挙に解決したという事例は大変多いものです。どんなに小さな情報であっても、犯罪に関し、見たり、聞いたりして知っていることについては、積極的に最寄りの派出所、駐在所又は警察署に通報をお願いいたします。

事件の発生を認知した場合は一一〇番で直ちに通報を

一一〇番通報があると数分以内に警察官が到着するほか犯人捕そくの適切な緊急配備等が実施されます。警察官の現場到着

犯罪について知っていることは積極的に通報を

犯罪者の周囲には多くの地域の皆さんの目や耳があり、犯行のそのものや犯罪者の姿を多くの

人がとらえております。このように犯罪について知っている事があればどんなに小さな事でも警察に通報して下さい。

捜査をする上で重要な手掛りを得る「聞き込み」が、現在、社会情勢の変化などに伴って非常に難しくなっています。

警察では協力をいただいた方にご迷惑をかけたりますことがないよう十分配慮しています。

犯罪捜査のために捜査員が聞き込みなどでお伺いした際には、どうか積極的なご協力をお願いいたします。

捜査活動に対し地域住民の一人層のご支援、ご協力をお願いいたします。

昭和五十六年度 米国派遣農業研修生募集

- 一、募集期間 昭和56年6月1日～8月3日
- 二、募集人員 十名
- 三、応募方法 所定の申込書、健康診断書、戸籍抄本、被推せん者名簿などを最寄りの農業改良普及所を通じて県営農指導課に提出する。
- 四、選考 (1)県選考 期日 8月10日 場所 那覇会場 海邦会館 (2)中央選考
- 五、応募締切 8月5日 営農指導課
- 六、尚、詳しいことは、最寄りの農業改良普及所あるいは県営農指導課にお問い合わせ下さい。

西原クラブ 男子、優勝

中頭地区少年少女バレーボール大会が五月十日と十七の両日、具志川市田場小学校体育館で行われ、西原クラブ男子が昨年に引き続き優勝に輝いた。二十チームが参加し、一回戦から苦戦を強いられ、一回戦に勝利し、優勝戦では、北玉クラブを2-0で下した。一方、西原クラブ女子は、ベスト8まで進出したが健闘むなく準々決勝で惜敗した。

第一回町庭球選手権大会のお知らせ

主催 町体育協会
日時 七月十九日午前八時半
場所 南西石油テニスコート
種目 一般男・女シングルス 壮年シングルス
尚、詳しいことは町体育協式庭球部長・上原義人(電話五三一五六七)までお問い合わせ下さい。

あっぱれ！ 初優勝 桃原青年会

去る五月十七日、町青年団体連絡協議会(与那嶺義雄会長)主催による第一回男女混成ソフトボール大会が、西原中グラウンドをメイン会場に坂田小、西原小グラウンドで行われた。

この大会は、各部落青年会の親睦と町青年会との連帯を深めるために行われた、十五チームが参加した。

それぞれの試合では、珍プレーなどが続出し、笑いがとびかい勝負を抜きに終始なごやかな雰囲気を楽しみ一日を過ごした。

決勝戦は、桃原青年会と八区青年会Bとの間で行われ、桃原青年会が終始リードを奪い、12-5の大差で八区青年会Bを破り、初優勝に輝いた。



▶桃原青年会ソフトボール初優勝